

自己評価結果を踏まえての「今後の改善方策」

「教員の自己評価結果」の考察で、次の2点を課題として挙げた。1つ目は、規則の順守や生活習慣の定着、あいさつについて教員から児童へのA評価が低下（10%未満）したことである。これは保護者による評価の傾向とも合致し、次年度は、家庭・地域の協力のもと、児童への働きかけを機会逃さず根気強く行っていく必要があると考える。2つ目は、「いじめのない集団づくりができていない」でのA評価が低下したこと（教員85%⇒56%）である。現在の児童はコロナ禍に幼少期を過ごし、集団生活の中での社会経験が不足していることも一因であろう。自己肯定感や友達とのつながりを感じられるスマイルタイムなどの学校行事や友達とコミュニケーションを増やす学級活動を工夫し実践する必要がある。また、学級経営に関わる優れた教育技術や財産をより多くの教員が見聞きし、それぞれの学級で実践することも重要になる。

これらに関わる改善方策として以下のような事柄をあげる。

- ① 「GIGAスクール構想」と「統合型校務支援システム」が始動5年目を迎えた。『令和の日本型学校教育』を目指しての大転換が今まさに進行中である。本年度も、3学期から児童と教員一人一人に新しくiPad（タブレットPC）が付与された。児童の学び支援や教員間の知見の共有や生成、校務の効率化に関する研修を効率を考えながら行い、教員がICTリテラシーを高めているところである。校務支援システムは教員の働き方改革に寄与し、一人1台のタブレットは児童の個別最適な学び支援に役立っている。今後も積極的な活用を心がけたい。
- ② 佐古小学校では「教員の世代交代」に対応するために、すべての教職員が初任者や教職経験の浅い教員を見守り、積極的に関わってきた。その結果、「経験に裏打ちされた子どもの教育に関わる教育技術や財産」が教職員間で引き継がれ、また、若い世代のフレッシュな感覚や情報リテラシーに組織がよい刺激を受けている実感がある。来年度も「チーム佐古」を合い言葉に、新しいシステムや教育技術・関連機関の情報を探求心をもって主体的に取り入れ、教職員が互いに切磋琢磨しながら愛日教育を進めていきたい。
- ③ 児童に「望ましい生活習慣」を身に付けさせるためには、今後も引き続き道徳教育等を推し進め、身近な大人や上級生が各児童の心の琴線に触れる言動を継続して行い、よいモデルとなる必要がある。加えて、本校の特色である「豊かな感性を育てる音楽活動」や「異年齢集団による各種行事」の場で、児童が協働的な様々な学びを体験・実践することにより、自分及び自分が属している集団の生活の仕方に自信をつけられるよう支援していきたいと考えている。

「学校関係者評価結果」及び「今後の改善方策」

学校関係者評価結果 （令和8年2月10日 13:20～実施）

【アンケート結果から】

- 児童アンケートの「授業中に発表している」では、C・D評価が47%で、「先生に質問や相談をしている」では、C・D評価が43%とできていない子が多い。自己表現、自己主張できる子を育ててもらいたい。
- 発表が苦手な子も多いが、「授業中に発表している」の、A・B評価が53%で、行事の後などに「感想が言える子」とたずねると、たくさんの子が手を挙げています。これは、スマイルタイム（歌声集会）が好影響を及ぼしていると思う。
- 先生の各項目へのA評価が下がっているのが気になる。
- 先生と保護者の関係は概ね良好であり、好ましい状況である。

【生活の様子から】

- 1人1台タブレットを活用する中で、インターネットモラルについても学び、情報通信での被害者にも加害者にもならないようにしてほしい。
- 便利なコミュニケーションツールが普及しているが、ルールを守りトラブルを未然に防ぎ、安全に使用してほしい。
- オンラインゲームで、知らない大人と接触したり、なりすましに遭遇したりすることもあるので、注意が必要である。
- ゲームの影響もあると思うが、子どもたちはすぐ「死ね」と言う。暴言も出てくる。悪影響のあるゲームには注意が必要である。

【参観日の様子から】

- 子どもたちが一生懸命授業に集中していた。
- どの学年の保護者も私語がなく、温かいまなざしで参観していた。

今後の改善方策

今回の学校関係者評価は学校運営委員3人に、授業参観も含めて評価してもらった。評価結果並びに参観での感想では、佐古小学校の児童や教職員をあたたく見守るお気持ちやお言葉をいただき、また、本校が今後進むべきガイドラインを示していただいた。次年度も『自己評価結果を踏まえての「今後の改善方策」』で述べた3点に重点を置いた実践並びに情報モラル指導を重ね、愛日教育をより進めていきたい。